

Planning and CoordinationMACHINE TIME EXECUTIONREPORT (2002-2 CYCLE)

Experimental Group	T506	Reporter	青木正治
Scheduled Period and Shift	2002/5/23 9:00 ~ 2002/5/31 1:00 19 shifts	Main, Sub, Para	Para
Experimenters 青木正治、佐藤朗、久野良孝、田窪洋介、野坂教爺、前田文孝、中原健吾、石井純子、坂本英之、寺井勝俊、横井武一郎			
<p>SUMMARY OF EXECUTION AND RESULTS</p> <p>セットアップに6シフトを要しました。その後、IST製ストローチューブチェンバーのデータを収集し、エミッタンス測定時間に合わせてLAMINA製ストローチューブに置き換えました。一通りの測定が終わった後、PCとCAMACを繋ぐケーブルからの電磁輻射雑音を認めたため、当該ケーブルのシールドイングを行った後、IST、LAMINA両方の再測定を行いました。実行した測定の内容は、1) ストロー長手方向の位置測定精度の一様性、2) 角度を持ったビームに対する位置測定精度の角度依存性、3) ADCのゲート幅に対する依存性、4) ストロー高電圧依存性です。クイックな解析の結果、ストロー長手方向の空間分解能としては、IST製ストローで500ミクロン程度、LAMINA製ストローで800ミクロン程度となっています。今後の詳細な解析によってこの数値はさらに改善すると思われます。測定は大成功であったと考えます。</p>			
<p>EXECUTED MACHINE TIME, BEAM CONDITION, DOWN TIME etc.</p> <p>マシンタイム：140時間</p> <p>ビーム条件：MR 3.0E12, IT 2.0~4.0E11</p> <p>ダウンタイム：4時間</p>			
<p>COMMENTS</p> <p>田井野さんからの手厚い現場サポートに大変感謝しております。また、本テスト実験の準備の為に前もって電気回路一式を借り出す必要があったのですが、その際関係者の皆様にいろいろと御尽力頂きました。この場を借りてお礼申し上げます。</p>			